

修士論文の和文要旨

大学院情報システム学研究科		博士前期課程	情報システム設計学	専攻
氏名	梅津 圭介		学籍番号	0650006
論文題目	携帯電話を用いた高齢者向け外出支援システム ここバリアの開発			
要 旨				
<p>近年，世界的に急速な高齢化が問題となっている．日本においても今後訪れる超高齢社会に向けて，労働力の減少や社会保障費の増大など多くの課題が指摘されており，高齢者の社会活動への参加が様々な観点から重要となってきた．しかし，高齢者の中には身体の衰えや生活環境における問題などからひきこもりがちになっている人が数多くいる．そこで，高齢者の外出を促進することがひいては高齢者の社会活動の促進につながると考え，高齢者の外出を支援するための外出支援エージェントシステムを開発した．本システムは，高齢者の外出を阻害する障害物（段差などの構造的な障害物だけではなく，人ごみや駐輪などのソフト的な障害物を含む）と障害物への対応策，また交番やベンチといった役に立つ情報を，GPS 機能付き携帯電話を通して歩行中の利用者へ通知する．さらに，利用者から障害物等の情報を投稿する機能を有する．</p> <p>本論文ではシステムの概要を説明し，システムの有用性を評価するために行った上野公園での実証実験で得た 10 人の被験者（高齢者）からのアンケート結果をもとに評価，考察し，情報通知は役立つといった意見や携帯電話の画面で通知情報を認識できるといった評価からシステムの有用性を確認した．</p> <p>また，高齢者の身体状況や必要としている情報は人それぞれ異なるため，不要な情報通知や面倒な操作は減らす必要がある．そこで，ユーザのプロフィールに応じて適したコンテンツを取捨選択，通知するためにベイジアンネットワークを用いたコンテンツ取捨選択機能の精度評価実験と考察を行った．取捨選択機能の精度は平均 78.5 % の適合率を得たが，適合率が低くなってしまう事例もいくつかあった．</p> <p>最後に関連研究と本研究のまとめ，考察と今後の課題を以って今後の展望とする．</p>				